

2020年5月17日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 46 編 2～12 節

ルカによる福音書 8 章 22～25 節

「信仰はどこにあるのか」

【招詞】 マタイによる福音書 11 章 28～30 節

【祈祷】

天の父なる神さま

今朝も、わたしたちに新しい朝、新しい命、新しい主の日を与えて下さり感謝いたします。この一週間も御言葉に支えられ、あなたの導きと守りの内に歩むことが出来ました。しかし、その恵みの中にあっても、あなたを愛すること、隣人を愛することの出来ない者であったことを御前に悔い改めます。あなたの御心に従って歩むことが出来ますように、どうか私たちを御言葉によって新しくして下さい。

宮崎県では緊急事態宣言が解除され、少しずつ日常を取り戻そうとしています。一方でさまざまな対策に疲れて気が緩んだり、また自分のことばかりを考え隣人に対して愛を忘れてたりする私たちです。どうか私たちが、あなたを見つめ、熱心に祈り求め、隣人のために執り成し祈り、愛の業に励むことを忘れることがありませんように。ますます、あなたを求め者とならせて下さいますよう導いて下さい。病にある方、世の為政者たち、医療や日常を支えるために働いている方、苦しみを覚えつつ忍耐している方に、どうか助けを、守りを、平安をお与え下さいますように。

主よ、私たちの愛する姉妹が、先週御許に召されました。あなたが姉妹に信仰を与え、人生を守り導いて下さり、最後まで信仰の歩みを全うさせて下さったことを感謝いたします。地上での別れに、ご家族や、親しかった者たち、また教会の兄弟姉妹は、悲しみと寂しさを覚えております。しかし、イエスさまの復活の希望によって、慰めと平安が与えられますように。どうか、生きておられるイエスさまが共にいて下さり、支え、励まして下さい。

新型コロナウイルス対策のために、今日も私たちは、共に御前に集って礼拝をすることは出来ません。しかし、それぞれの場所、時間にあって、あなたに礼拝をささげ、御言葉を頂き、恵みに与ることが出来ますように、聖霊の導きを教会に連なる一人一人にお与え下さい。語る者、聞く者に、聖霊が豊かに働いて下さい。そして、主にあって結ばれている兄弟姉妹が、心をつにして、この時を共に歩んでいくことが出来ますように。そしてまた、共に御前に集い、礼拝をささげることが出来る日を、一日も早く来たらせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【聖書朗読】

詩編 46 編 2～12 節

ルカによる福音書 8 章 22～25 節

【説教】「信仰はどこにあるのか」

<神の言葉を聞いて行なうこと>

8章に入って、イエスさまは多くの人々に神の国、神の言葉を宣べ伝えておられました。

そして、三つの教えを通して、「神の言葉をどう聞くべきか」ということ、「神の言葉を聞いて行なう」ということを教えて来られました。種を蒔く人のたとえ、ともし火のたとえ、そして先週の、イエスさまの家族とはどういう人か、という教えです。

イエスさまが蒔いて下さる種、語りかけて下さる救いの知らせ、神の言葉を聞いたなら、それを信じ、受け入れなさい。その救いは神さまの力によって必ず実現するから、忍耐して、希望をもって、御言葉を大切に持ち、待っていなさい。そうして、神さまの御言葉を聞いて、依り頼み、信頼し、希望を持って待つ者は、わたしの家族になるのだ。神の子とされるのだ。そう、イエスさまは教えて下さいました。

今日の箇所は、その続きにあります。これから、三つの奇跡の物語が語られていきます。それは、このイエスさまが教えて下さった「神の言葉をどう聞くべきか」、「神の言葉を聞いて行なうとはどういうことか」、ということ、具体的に語っているのです。

<嵐の中へ>

さて、今日のところは、イエスさまが弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸に渡ろう」と言われたところから始まります。

イエスさまの御言葉を聞き、従ってきた弟子たちです。彼らは、イエスさまに従う中で、イエスさまに連れられて、突風や荒波を経験することになるのです。

これは、信仰者、また教会の歩みと同じです。私たちは、イエスさまを信じたからこそ、イエスさまと共に歩むことになったからこそ、思いもよらない所へ行くことになったり、そうでなければ経験することのなかった苦しみや試練に遭うことがあります。信仰がなければ、経験することのなかった戦い。葛藤。苦しみ。そういう嵐の中に、信仰が与えられたからこそ、投げ込まれることがあるのです。

弟子たちもまた、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたイエスさまに従って、舟に乗り込みました。当のイエスさまは、舟出して渡っていく途中で、眠ってしまわれました。

するとそこに、「突風が湖に吹き降ろしてきて、彼らは水をかぶり、危なくなった」のです。彼らは今、命の危険に晒されています。弟子たちの何人かは、元はプロの漁師でした。そんな彼らにも手に負えない荒波だということです。しばらくは、何とか舟を漕ぎ進め、あるいは水を汲み出し、出来る限りのことをしていたのかも知れません。しかしもはや、どうしようもない、という状況になってきて、弟子たちは恐ろしくなりました。

そこで弟子たちが見たのは、イエスさまが眠っておられる姿です。弟子たちが、本当に死ぬ思いで必死になり、もう駄目だ、というところまで来ている。それなのに、イエスさまは眠っておられる。自分たちの不安や恐怖を知らずにおられる。何も働いて下さらないのです。

弟子たちはイエスさまに近寄り、起こして言いました。「先生、先生、おぼれそうです。」

すると、イエスさまは起き上がって、風と荒波をお叱りになった、とあります。すると、イエスさまの言葉によって、風と荒波は静まり、凧になりました。

そして、イエスさまは言われたのです。「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」

<信仰はどこに>

さて、弟子たちの信仰は、どこにあるべきだったのでしょうか。

これは、イエスさまが弟子たちに、「あなたがたは信仰が全く無いじゃないか」と言っておられるではありません。

弟子たちは、イエスさまの御言葉を聞き、従ってきているのです。神の国を教え、癒しの御業を行ない、救いの実現を約束して下さる、神さまから遣わされた救い主イエスさまを、信頼し、お招きに応えて、歩んできたのです。だからこそ、今イエスさまと一緒に舟の上にいるのです。むしろイエスさまは、こう問いかけられたのです。

「あなたがたの信仰はどこにあるのか。あなたがたは、今わたしに従っているのではないか。今わたしと共にいるのではないか。あなたがたの信仰は、今ここに、わたしと共にあるはずではないか。」そのように、イエスさまは弟子たちのあるべき信仰を見つめさせようとしておられるのです。

でも、弟子たちはこう思うのではないのでしょうか。だって、あなたは眠っておられたではありませんか。わたしたちは恐れ、叫び、不安になっていたのに、その時、何もして下さらなかったではありませんか。働いて下さらなかったではありませんか。

この思いは、私たちも信仰の歩みの中で抱くことがあります。試練の時、苦しみの嵐の時、私がこんなに苦しみ、悩んでいるのに、どうしてすぐ助けて下さらないのですか。どうしてすぐ解決して下さらないのですか。働いて下さらないのですか。眠っておられるのですか。私の苦難を、ご覧になっていないのですか。そう思うしてしまうのです。

そして、いただいた神の言葉を手放してしまうのです。救いの恵みを疑ってしまうのです。自分が持っていたはずの信仰が、無くなってしまったように思うのです。そして、忍耐することが出来ず、待つことが出来ず、慌てふためき、叫び出すのです。

それが、「神の言葉を聞いて行なうことができない人」の姿です。神の言葉に信頼できず、保ってられないのです。神の言葉の種が、試練で、茨で、嵐で、奪われ、枯れてしまい、実を結ばないのです。今日の聖書の箇所の子供たちの姿は、まさにそのような姿なのです。

<この方はどなた>

しかし、イエスさまは弟子たちの呼びかけに起き上がって下さいます。助けを求める声に、応えて下さいます。それが罪深い叫びであっても、神さまへの信頼を欠いた、自己中心的な

叫びであっても、聞いて下さり、受け止めて下さり、起き上がって下さるのです。

そしてイエスさまは、風と荒波をお叱りになります。この方は、まことの人となられた神の御子です。その神の力によって、人の思いを超えた仕方によって、イエスさまは罪深い、疑い深い者をも憐れんで下さり、救い出して下さるのです。すべてを支配なさるお方が、確かに共にいて下さることを、知らしめて下さるのです。

しかしまた、イエスさまは弟子たちも叱咤されます。「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」あなたの信仰は、ここにあるはずだ。わたしが共にいるのだから、わたしに信頼を置きなさい。わたしに頼りなさい。わたしに委ねなさい。

こうして、神の言葉を手放してしまった弟子たちに、また神の言葉の種を蒔いて下さるのです。何度でも、何度でも、語りかけて下さるのです。

弟子たちは最後に互いに言い合いました。「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか。」

この方はどなたなのだろう。その答えは明らかです。自然さえ御言葉によって従わせる方は、神でしかあり得ません。この方は、神の子、メシアです。

弟子たちも、また私たちも、信仰者は何度もこの問いを繰り返します。「この方はどなたなのだろう。」そしてその度に、神の子であると、救い主であると、イエスさまご自身が御業によって、御言葉によって、教えて下さるのです。神さまご自身の力によって、私たちの種は成長させられ、実を結ばされていくのです。

私たちは、繰り返し、苦しみや、試練や、嵐を経験します。その度に信仰が揺るがされるように感じ、神の言葉を疑い、離れたたり、手放したりして、ますます不安や恐れに叫び出します。しかし、イエスさまは、いつもその嵐の只中に、必ず一緒におられます。

この方は、私たち以上に、苦しみも、悩みも、試練も、すさまじい嵐も、経験しておられます。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」十字架の上で、そんな神さまに見捨てられたと叫ぶ絶望をも、私のために受け入れ、私の代わりに叫んで下さるお方です。この方が、今の私たちの苦しみや悩みを、痛みを、嘆きを、ご存じないはずがありません。

この方が共にいて下さるのです。私たちのすべてをご存知の上で、すべてに勝利し、すべてを支配なさるこの方が、共にいて下さるのです。

また私たちは、嵐の中では気付かなくても、嵐が過ぎ去った後に、気付かされることも多いのではないのでしょうか。まったく私たちは鈍いのです。振り返れば、ああ、確かにあの時、イエスさまが共にいて下さった。確かに導きを与えて下さった。あのお方は眠っておられると思っていたが、むしろ、嘆き叫ぶ私を丸ごと担って下さり、私の重荷を引き受け、救いへ

と運び出して下さったのはこの方だった。そう知らされるのです。

そうして、私たちは信仰を告白する者へと変えられていきます。「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けて下さる。」と。

<信仰>

信仰は、私たちの思いとか、信念とか、自分の中にある確かさではありません。

信仰は、神さまによって与えられるものです。「イエスさまが私を救って下さる」。この神さまの恵みの救いの御業が、まずあります。そして、信仰とは、神さまを信頼し、その差し出された恵みを受け取ることなのです。だから信仰は、私の心の確かさではなく、十字架と復活のイエスさまの救いの確かさにこそ、あるのです。

私たちの思いや、信念ごときは、それこそ、わずかな風でも吹っ飛んでいきます。

イエスさまの弟子たちも例外ではなかったことは、聖書に記されている通りです。死んでも従うと誓ったって、いざとなれば恐れて逃げ出してしまうのです。

でも、イエスさまは、そのような私たちの罪をもすべて担い、滅びの死を引き受けて下さり、新しい命と復活を与えるために、十字架と復活の御業を成し遂げて下さいました。

この方が、何度も種を蒔き、何度も救いの御言葉を語りかけて下さることによって、私たちは御言葉を受け入れ、この方を信頼し、頼り、委ねていく者とされていくのです。嵐や試練の中でも、平安を得て、来たるべき希望を持って、耐え忍ぶ者とされていくのです。

それが、イエスさまにある信仰の歩みです。

ところでもし、この突風と荒波の時に、弟子たちが「神の言葉を聞いて行なう者」であったなら、弟子たちが、神の言葉を受け止め、イエスさまが救い主であることを信頼し、委ねることが出来る者であったなら、一体どうしたのでしょうか。

おそらく、彼らは嵐の中で、自分たちが出来ることをやり続けたのではないのでしょうか。何とか舟を漕ぎ、水を汲み出し、ひたすら荒波が静まるのを待ったのではないのでしょうか。嵐だけれども、イエスさまは安んじて眠っておられる。嵐にも動じられない、この嵐をも支配することができるお方なのだ。神の御子、救い主が、自分たちと共にいる。この方にあって、何があっても大丈夫だ。その思いと共に、自分が成すべきこと、与えられたことをひたすらして、忍耐して過ごしたのではないのでしょうか。

それほどにイエスさまに信頼し、委ねることが出来るならば、奇跡は起きなくても、そこには奇跡以上の、イエスさまにあるまことの平安が、確かにあるでしょう。

イエスさまは、それほどに私たちがイエスさまを信じ、神の言葉を頼り、神の御業の実現を忍耐強く待つものとなることを望んでおられます。

しかし、今日の弟子たちの姿にあったように、救いを待つこと、見えない恵みを信じるこ

とが難しく、中々イエスさまが望んでおられるように出来ない、私たちの弱さ、疑い深さ、罪深さをも、イエスさまはよくご存じです。

それでも、イエスさまは共にいて下さるのです。叫びを聞き、起き上がって下さるのです。共にいきましょう、言って下さるのです。

そして、何度も語りかけられます。「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」

わたしがここにいるではないか。わたしが共にいるではないか。このわたしに、あなたがたの信仰はある。あなたがたの罪を赦し、死から救い出し、命を与える、このわたしを信じなさい。このわたしを頼りなさい。このわたしに委ねなさい。

イエスさまは、そうして何度でも神の言葉を語りかけ、救いの恵みを注ぎ、私たちの信仰の歩みを、励まし、守り、導いて下さるのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたが私たちにイエスさまを遣わして下さい、救いの御業を成し遂げ、罪の赦しと新しい命へ、招いて下さいました。神の言葉によって、この救いの知らせを告げて下さいました。

どうか私たちが、あなたが差し出して下さった救いの恵みを感謝して受け取り、イエスさまに信頼を置き、依り頼む者となることが出来ますように。

そして、あなたの恵みの力によって、私たちの信仰を強め、励まし、導いて下さい。御言葉をしっかりと胸に蓄えて、忍耐して、希望をもって、待ち望む者とならせて下さい。

あなたの力が、救いを実現して下さい、すべてを完成して下さいを信じます。イエスさまの救いの恵みの確かさに、しっかりと立つことが出来ますように、私たちに聖霊の賜物を、信仰を与えて下さい。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 3 5 6 「インマヌエルの主イエスこそ」(讃美歌 2 1)

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讃美歌】 2 8 番 「み栄えあれや」

【祝福】

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン